

事業所名

ライシャワ・クレーマ学園

支援プログラム

作成日

2024年

12月

1日

法人（事業所）理念		キリスト教精神に基づいた聴覚主導の人間教育を行い、共感的、対話的人間性を育む取り組みを通して、幼児、児童、生徒個々の能力や個性を伸ばし、一人ひとりが自立して社会に仕える人となるよう支え導く。						
支援方針		1, キリスト教精神。（一人ひとりを大切にしたい支援をしています。） 2, 聴覚主導の人間教育。（ことばの獲得に最も大切な乳幼児期から最適に調整された補聴器や人工内耳を使って、残された聴力を最大限に活かす支援をします。） 3, 早期支援（乳幼児期の親と子どもの豊かな安定した関わり合いが持てるように支援をしています。）						
営業時間		8時	30分から	16時	30分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	乳幼児期から最適に調整された補聴器や人工内耳を使って、音やことばを聴き、意味を知り、行動できるようになる。補聴器や人工内耳の扱いになれ、一人で付け外しや管理が出来るようになる。個別支援では、本人の思いを肯定的に受け止め、人との関わりを楽しむようになる。						
	運動・感覚	親子のスキンシップ活動を楽しみ、人と関わる楽しさを味わう。さらにお友達と一緒に行動したり、お散歩に行き自然と触れ合う経験を通して、子どもの全体発達を促す活動を取り入れる。						
	認知・行動	日々の丁寧な関わりを通して、様々な音の存在やことばと出会い、その意味を知り行動していく。「聴く」ことを楽しみ、音やことばが身近な存在になるようにする。						
	言語 コミュニケーション	「聴いてわかる」ことを増やすためには、子どもとの日々の関わりが大切になる。1対1で向き合う経験を通して、ことばと出会いやり取りを重ねていく。子どもの中にことばを育てていく。また、人と関わるのが好きになっていく。						
	人間関係 社会性	受け止めてもらう経験を通して、人と関わるのが楽しみとなり、多くの人との関係作りを行うようになる。集団の中での生活を通して、集団のルールや行動を学ぶ経験になる。						
家族支援		週1回の個別支援では、家庭で行っていることを再現していただき、親子のかわりを「根拠をもって褒めます」たくさん褒めることで、子育てに少しずつ自信が持てるようになります。			移行支援	保育園に通う子どもへの支援や補聴器の扱い方、補聴のための関連機器の説明や音環境についてお話をします。		
地域支援・地域連携		見学会や教育相談を行うことで、難聴児を育てている保護者への支援になっている。			職員の質の向上	週2回 研修日とケースカンファレンスを実施しています。ケース会議では、学期ごとに全員の親子の様子を研修します。		
主な行事等		学校行事への参加（入学式・運動会・学芸会。クリスマス・卒業式等）夏には、水遊びやスイカ割り、シャボン玉遊び、夏祭りを行う。						